

# 令和5年度支部長会資料

令和5年12月6日（水）

足立防火防災協会

## 次 第

### 1 開会

### 2 あいさつ

(1) 足立防火防災協会 副会長  
足立 義夫 様

(2) 足立消防署 災害対策調整担当課長  
染谷 寛之

### 3 火災状況等について

(1) 火災状況について

(2) 出火原因別の対策等について

(3) 消防署が取組んでいる住宅防火対策について

### 4 連絡事項

### 5 閉会

# (1) 火災状況

令和5年12月1日現在・速報値

## ア 令和5年中の火災状況

		足立消防署 管内全域		本署		綾瀬出張所		淵江出張所		大谷田出張所		神明出張所	
		本年 累計	増減	本年 累計	増減	本年 累計	増減	本年 累計	増減	本年 累計	増減	本年 累計	増減
火災 件数 (件)	合計	99	46	23	15	27	17	14	2	18	7	17	5
	建物火災												
	全焼	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0
	半焼	4	2	1	1	1	0	1	1	0	0	1	0
	部分焼	10	4	3	1	0	-1	0	0	6	6	1	-2
	ぼや	52	25	11	7	14	10	10	1	8	2	9	5
	小計	69	31	15	9	16	9	11	2	15	8	12	3
	車両火災	7	4	0	0	3	3	2	1	0	-2	2	2
	その他火災	23	11	8	6	8	5	1	-1	3	1	3	0
焼損床面積(㎡)		603	155	59	56	136	-24	22	22	276	100	110	1
焼損表面積(㎡)		213	31	15	3	20	-96	4	4	129	129	45	-9
死傷者	死者	3	0	0	0	1	-1	0	0	1	1	1	0
	傷者	11	4	1	-2	1	0	1	-1	5	4	3	3

足立消防庁  
足立消防署  
綾瀬出張所

# イ 月別火災状況(令和5年中)

令和5年12月1日現在・速報値

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和4年	4	3	5	7	2	6	7	4	4	6	5	5
令和5年	21	7	10	10	10	8	10	5	5	7	6	0
増減	17	4	5	3	8	2	3	1	1	1	1	-5

-2-

# ウ 主な出火原因(令和5年中)

	1位	2位	3位
足立消防署管内 (件)	放火	たばこ	差込プラグ ろうそく 蚊取り線香
	27	7	3
	27.3%	7.1%	3.0%

## (2) 出火原因別の対策等について



# STOP!

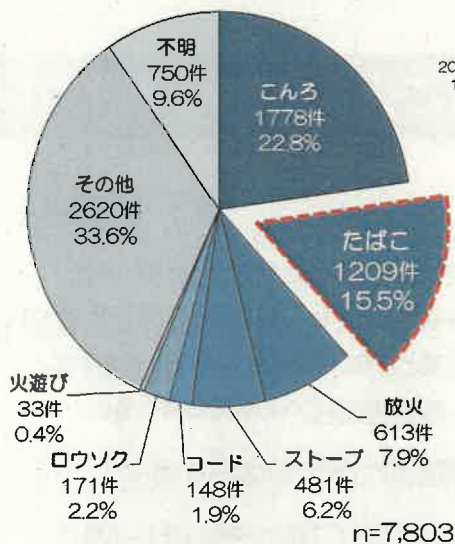
STOP! 住宅防火シリーズ② 火災から大切な命を守ろう

### たばこ火災の発生状況

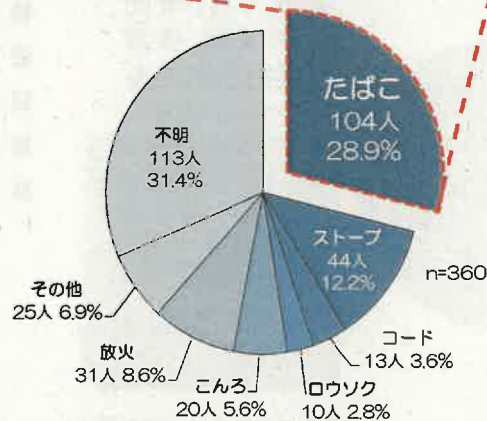
- 住宅火災のうち「たばこ」を出火原因とした住宅火災では、最も多くの死者が発生しています。
- 「たばこ」を出火原因とした住宅火災の死者は、半数以上が65歳以上の高齢者で発生しています。
- 出火原因「たばこ」による住宅火災は、「こんろ」に次いで2番目に多く発生しています。

# たばこ火災

「たばこ」を出火原因とした  
年齢別死者数 (H30～R4 住宅火災)



出火原因別火災件数  
(平成30年～令和4年 住宅火災)

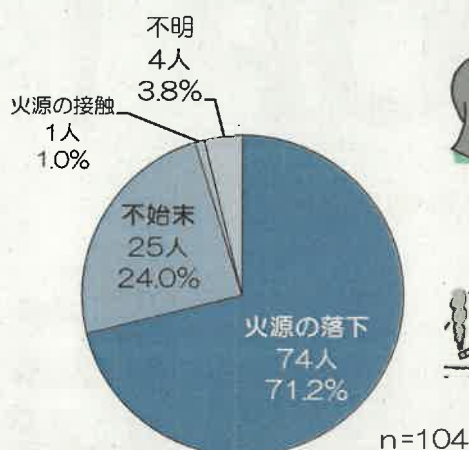


出火原因別死者数  
(平成30年～令和4年 住宅火災)





## たばこ火災発生原因



たばこ火災発生状況別死者数  
(平成30年～令和4年 住宅火災)

平成30年から令和4年までの過去5年間における「たばこ」による住宅火災の死者104人中74人が「たばこの火種が落下する」ことで発生した火災で亡くなっています。



## あなたにも起こりうるたばこ火災

### 事例①:死者が発生した「たばこ」による住宅火災

共同住宅の居住者(女性・40歳代)がたばこの火種を灰皿の上で消した後、ごみ箱に捨てたことにより残っていた火種が中のごみくずに着火し火災となったもの。



### 事例②:死者が発生した「たばこ」による住宅火災

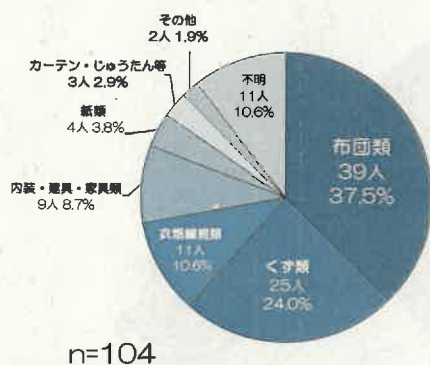
長屋兼共同住宅の居住者(男性・70歳代)が、在宅酸素吸入器を使用中、寝たばこをし、火源が鼻カニューレに落下したことにより穴が空き、送気されていた高濃度酸素により火種が拡大し火災と



たばこの火源が鼻カニューレに着火する検証実験の状況

在宅酸素療法を行っている方は要注意！

## たばこ火災の着火物は何か？



着火物別の死者数では、布団類、くず類、衣類繊維類の順で多くなっています。



寝たばこにより火源が落下し  
布団に着火した火災

たばこ火災の着火物別死者数  
(平成30年～令和4年 住宅火災)

## たばこ火災を防ぐポイント

- 寝たばこは絶対にしない。
- 吸殻を灰皿やごみ箱にためないようにする。
- 吸殻を捨てるときは、必ず水をかけ完全に消火する。
- 火種を落とさないよう安全な場所で喫煙する。
- 禁煙、加熱式たばこへの切替も考える。



就寝前や外出前は必ず消す！

吸殻の捨て方に注意しましょう！





# STOP !

STOP ! 住宅防火シリーズ③ 火災から大切な命を守ろう

## あらゆる器具で発生するストーブ火災

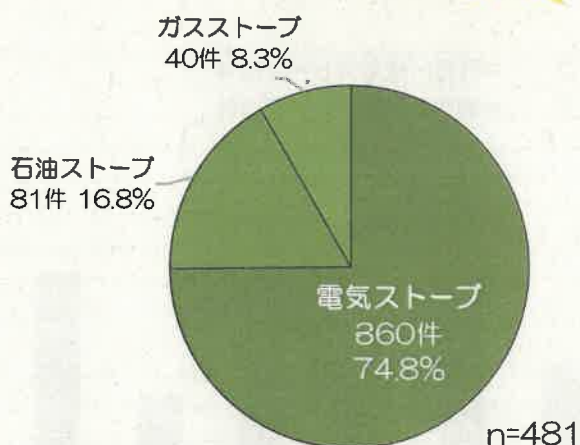
- 過去5年間で東京消防庁管内においてストーブを出火原因とする火災が481件発生しました。
- 電気ストーブによる火災が74.8%で、非常に高い割合となっています。

# ストーブ火災



電気ストーブに布団が  
接触し焼損した状況

火を使わない電気ストーブで  
実は一番多くの  
火災が発生しています！



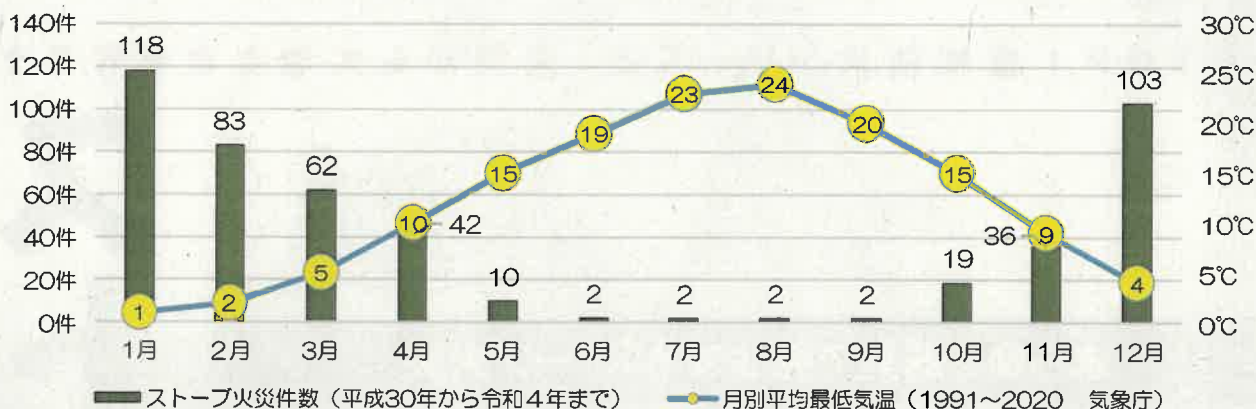
出火原因ストーブの内訳  
(平成30年～令和4年 住宅火災)

東京消防庁



## 寒い時期を中心に発生！

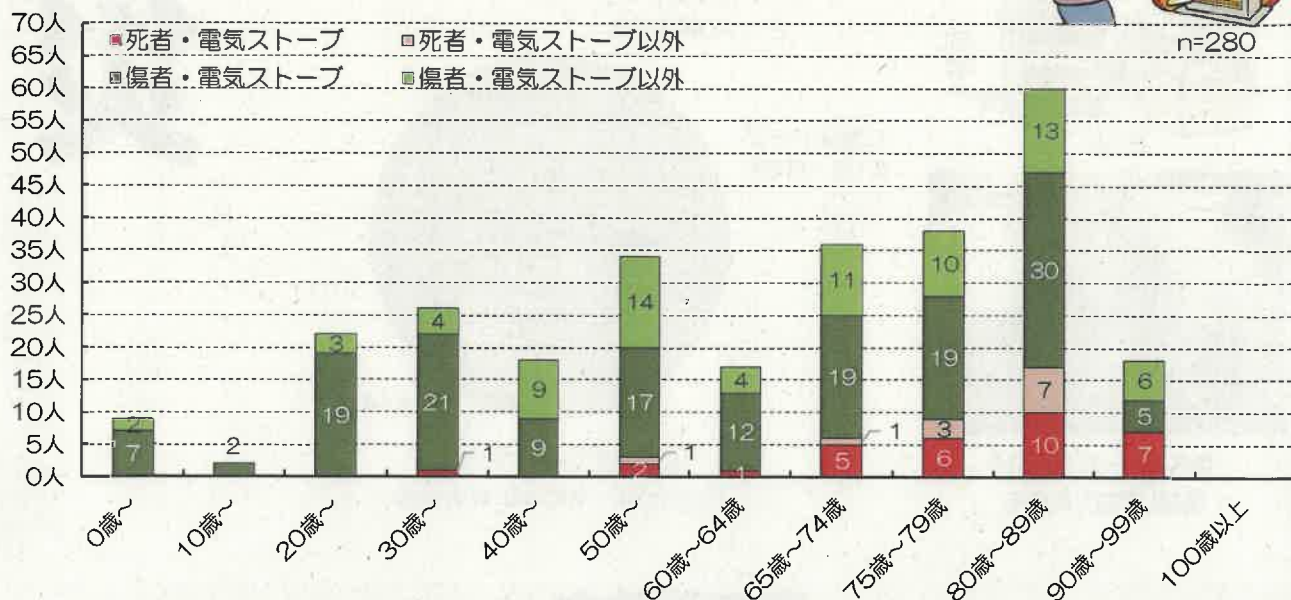
- ストープ火災は、平均最低気温15度となる10月の秋頃から増え始め、4月の春先にかけての時期を中心に発生しており、注意が必要です。



月別のストーブ火災件数 (平成30年~令和4年 住宅火災)

## 死傷者の発生状況(過去5年)

- ストープ火災による死傷者は計280人(死者44人、傷者236人)で、このうち7割の192人は電気ストーブが出火原因となっています。
- ストープ火災による死者は44人で、このうち32人は電気ストーブが出火原因となっています。また、死者44名のうち39名が65歳以上の高齢者です。

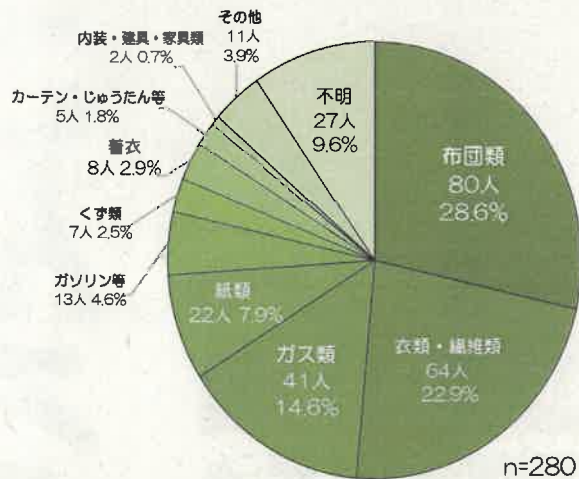


年齢別のストーブ火災による死傷者数 (平成30年~令和4年 住宅火災)



## ストーブの周りに物を置かない

- 死傷者280人のうち、布団類や衣類・繊維類の可燃物に着火した件数は144件で、51.5%となっています。
- ガス類(スプレー缶等)が2番目に多くなっています。



着火物別のストーブ火災（平成30年～令和4年 住宅火災）



室内でストーブが原因となりスプレー缶内のガスに引火し爆発した火災（屋外ベランダの様子）

**スプレー缶廃棄時の火災も発生しています！**

- 可燃物とストーブが接触することや、ストーブ付近のスプレー缶等が高温になって破裂し、漏れたガス類へ引火し爆発することによって、火災が発生しています。

スプレー缶を捨てる時は穴をあけたりせず、必ず最後まで使い切ってから自治体の廃棄方法に従って捨てましょう。

## ストーブ火災を防ぐポイント

- 外出時や就寝時は必ず消す。
- 周囲に布団やカーテン、洗濯物などの燃えやすいものを置かない。
- スプレー缶は近づけない。
- 給油は必ず消してから行う。



問 合 せ 先

東京消防庁 防災部 防災安全課 電話番号 03-3212-2111 内線4196



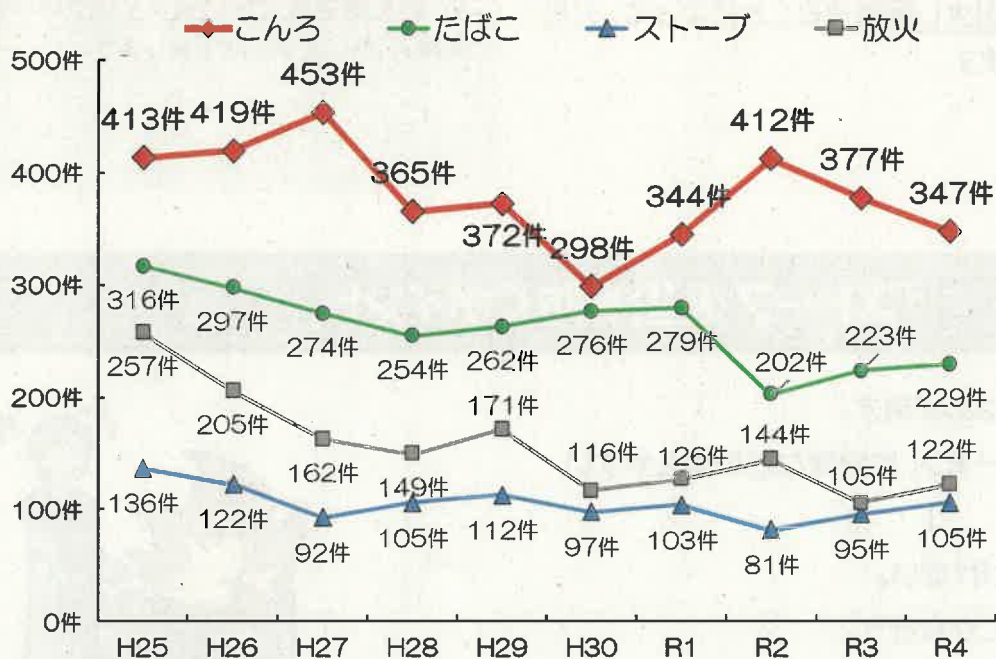
# STOP !

STOP ! 住宅防火シリーズ④ 火災から大切な命を守ろう

# こんろ火災

## 住宅火災の出火原因で最も多いこんろ火災

■ 毎年、住宅火災の出火原因の中で一番多いものはガスこんろや電気こんろ等の「こんろ」です。



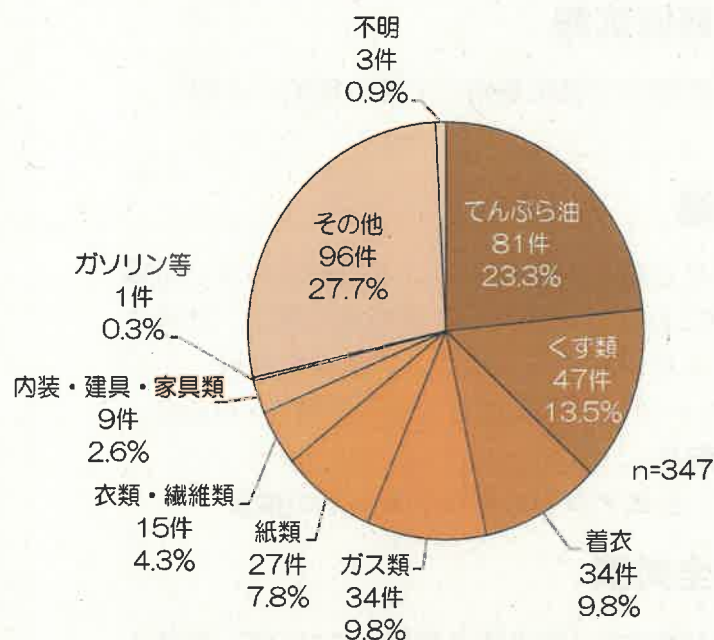
出火原因別の住宅火災件数の推移（平成25年～令和4年）

東京消防庁



## 調理中に離れない

- 令和4年中、こんろ火災は347件発生し、「てんぷら油」に着火して火災に至った件数が最も多くなっています。
- 油かすやごみくずの「くず類」、エアゾール缶などのガス類、身に付けている衣服に着火した「着衣」の件数も多くなっています。



※「てんぷら油」とは、調理に使用する動植物油をいいます。

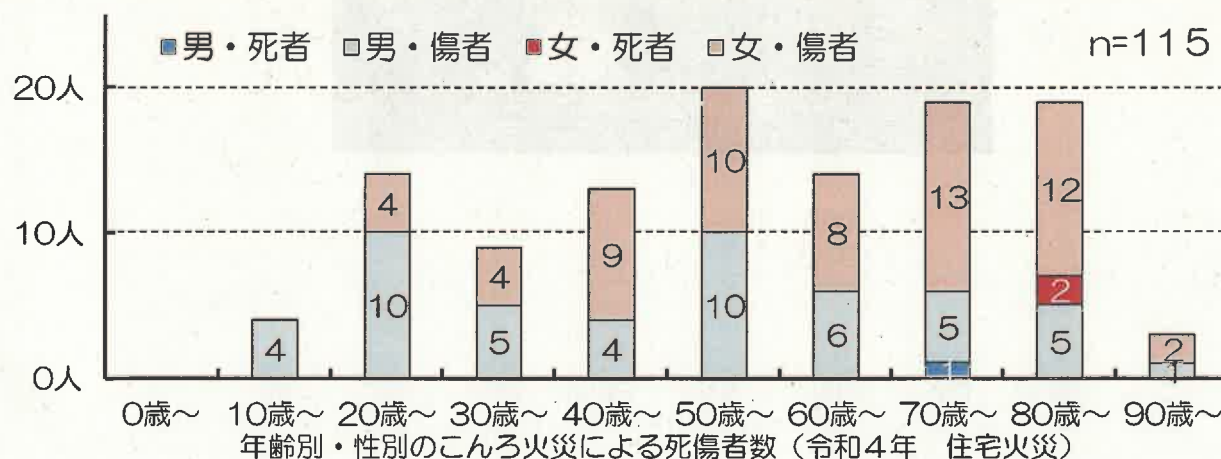
着火物別のこんろ火災件数  
(令和4年 住宅火災)

- 火をつけたまま放置し忘れること、そしてくず類などの可燃物がこんろの火と接触することで火災が発生していることがわかります。

★調理中にこんろから離れず、離れる場合にはこんろの火を必ず消すことが火災を発生させないポイントです。

## 死傷者の発生状況

- 死者3人のうち、男性は1人、女性は2人で、全て65歳以上の高齢者となっています。



### (3) 消防署が取り組んでいる住宅防火対策について

#### 1 住宅火災防止対策

- (1) 住宅火災発生時に、周辺住宅に火災予防を呼び掛けるチラシを配布
- (2) 足立区の協力により、足立区Aメールによる「火災予防の呼び掛け」を発信

#### 2 火災多発期等における巡回広報

主に年末年始消防特別警戒実施期間中に消防車両にて管内地域を巡回し、火災予防の呼び掛けを実施

#### 3 火災予防広報活動の推進

- (1) 火災予防運動期間中における足立防火女性の会による巡回広報及び危険物安全週間、防災週間の期間中におけるポスター、横断幕の掲出、庁舎入口でのデジタルサイネージによる広報映像の放映による広報を実施
- (2) 広報誌「あだち119」、各種リーフレット及びポスターを町会・自治会、事業所、駅舎及び教育機関等へ配布
- (3) ホームページによる情報発信、公式アプリのダウンロードの推進

#### 4 要配慮者等に対する安全対策

- (1) 足立区障がい福祉センターが主催する「防火防災訓練」において、肢体不自由な方々に対し、防災講話を実施するとともに、センターの避難経路や転倒防止対策についてアドバイスを実施
- (2) 日本語が話せない、ウクライナからの避難してきた方々に、①初期消火要領、②通報要領、③避難要領を指導







# STOP!

STOP! 住宅防火シリーズ① 火災から大切な命を守ろう

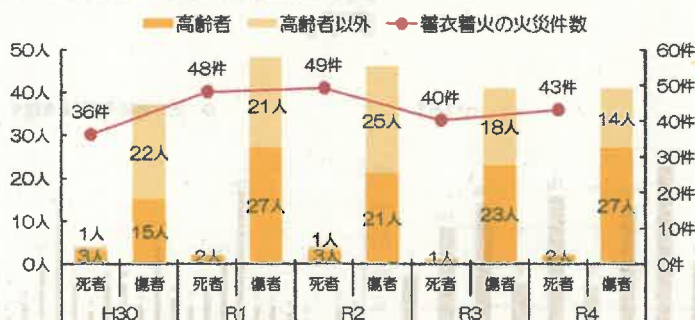
## 着衣着火

### 着衣着火とは

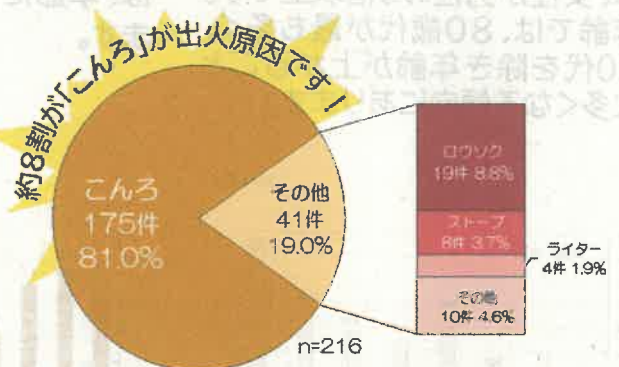
着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が身に付けている衣服に着火したことをいいます。

### 着衣着火の発生状況

- 令和4年の死傷者が発生した着衣着火による住宅火災件数は43件で、前年と比較すると3件増加しています。
- 令和4年の着衣着火による死者数は2人で、前年と比較すると1人増加しています。



死傷者が発生した着衣着火件数・死者数・傷者数  
(平成30年～令和4年 住宅内 自損は除く)



出火原因別の死傷者が発生した着衣着火件数  
(平成30年～令和4年 住宅内 自損は除く)



死傷者が発生した着衣着火のうち「こんろ」を出火原因とする火災は約8割を占めています

過去5年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します  
(平成30～令和4住宅内181人中、死者9人、傷者172人)

## 火 前 後

### 顔・頸部(8人)

90歳代女性は、自宅の台所で調理をしていた際に、エプロンの袖がこんろの火に接触して、着火し、受傷した(中等症)。

### 手・腕(55人)

①20歳代女性はコンロで調理中に着衣に火が燃え移り、同居人20歳代男性に初期消火を依頼した。男性も初期消火中に受傷した。(男女ともに中等症)

②20歳代女性は、調理中ガステーブルの奥に置いてある調味料を取ろうとした際に、着ていた割烹着の袖がこんろの炎に触れて着火し、右手の甲を受傷した(軽症)。

### 胸部(9人)

60歳代女性は、調理中の鍋からはみ出したこんろの火が着衣のすそに着火し、上半身に掛けて燃え広がり受傷した(重症)。

### 腹部(9人)

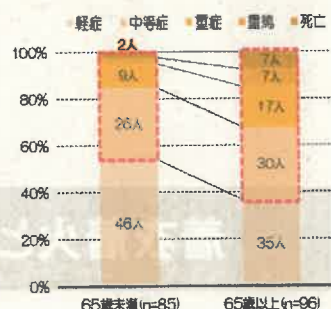
30歳代女性は、哺乳瓶を煮沸消毒中、こんろ上部のフックに調理器具をかけようとした際に、着衣に着火し、受傷した(軽症)。

### 背部(22人)

70歳代女性は、調理のためこんろに火をつけ、後ろを向いたところ着衣に着火し受傷した(中等症)。

※ 部位については、  
その他部位78人を除く

高齢者は素早く消火ができず、重症化してしまう場合があります。



受傷程度別死者数

## 女性に多い

## 生活・服装の変化

## 調理する時間帯に注意

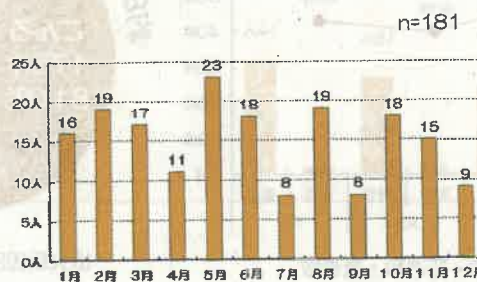
こんろによる着衣着火の死傷者は、女性が男性の3倍以上です。年齢では、80歳代が最も多く、90代を除き年齢が上がるごとに多くなる傾向にあります。

こんろによる着衣着火の死傷者は、季節に関係なく発生しています。

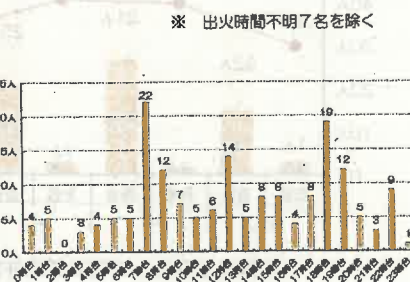
こんろによる着衣着火の死傷者は、調理する時間帯と考えられる7時台及び12時台、18時台で多く発生しています。



性別・年齢



発生月



発生時間

## 着衣着火を防ぐポイント

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意する。
- こんろのまわりに物を置かない。こんろのまわりの物を取る時に、着衣に燃え移る事例が多数発生しているので注意する。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調節する。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書をよく読んで正しく使用する。



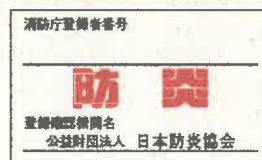
## 防災品を使用しましょう

- 防災品とは、火がついても容易に着火せず、着火しても延焼拡大を停止する自己消火性を備えた素材で作られた品物のことをいいます。

左：防災品 右：非防災品



防災品ラベルは2種類あります



提供：日本防災協会

←防災物品ラベル

↓防災製品ラベル



※ラベルには様々な様式があります。

- 着衣着火を防ぐため、こんろなどの火気を使用する際はエプロンやアームカバーなどは防災品を身につけましょう。

同じタイミングで着火しても、防災品のエプロンは燃え広がらず、受傷リスクを大幅に軽減することができる。

## もしも着衣に着火した時は

水をかける、脱ぐ、たたくなどして早急に消火し、119番通報を行いましょう！！



問 合 せ 先

東京消防庁 防災部 防災安全課 電話番号 03-3212-2111 内線4196

令和5年10月発行





# STOP !

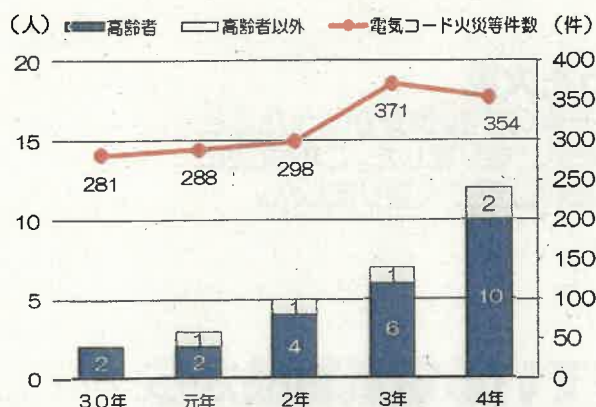
STOP ! 住宅防火シリーズ⑤ 火災から大切な命を守ろう

## 電気火災

### 身近に潜む電気火災危険

電気火災とは、電気や電気製品にかかわる火災のことをいいます。

- 電気火災の中でも電線の短絡・トラッキング・半断線等によって起こる火災(以下「電気コード火災等」という。)は、火を使用している意識がないため、火災に気づきにくい特徴があります。
- 電気コード火災等は増加傾向にあります。電気コード火災等による死者数は年々増加しています。
- 電気コード火災に至る経過として、電線の短絡、金属の接触部過熱、トラッキングの順で発生しています。



電気コード火災等の件数及び死者数  
(平成30年～令和4年 住宅火災)



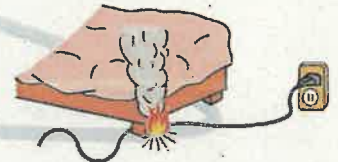
経過別の電気コード火災等件数  
(平成30年～令和4年 住宅火災)

東京消防庁



## 電線の短絡(ショート)・半断線

電気コードの家具等による踏みつけ、束ねての使用、折れ曲がったままの使用は、電気コードの被覆の損傷や温度上昇、経年劣化による短絡(ショート)、半断線による発熱を引き起こし、火災の原因になります。



- 電気コードを家具の下敷きにしない。
- 束ねて使用しない。
- 折れ曲がりに注意する。
- すでに被覆がはがれているコードは使用しない。

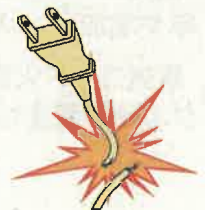


※ 半断線とは、コード内部の線が一部断線した状態のことをいいます。

## 死者が発生した火災事例

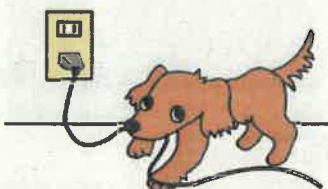
### 半断線により出火した火災

この火災は、何らかの荷重がかかったことによりテーブルタップのコードが半断線状態になり発熱し、周囲にあった衣類に着火して火災となりました。この火災により、居住者2名(女性・40歳代、女性・70歳代)が亡くなりました。



### 小動物が原因となった火災

冷蔵庫のコードをねずみ等の小動物がかじったことにより配線が短絡し、火災となりました。この火災により、居住者(男性・60歳代)が亡くなりました。



**普段利用している電気製品から  
気づかぬうちに火災しています！**

## 金属の接触部の過熱

プラグがコンセントにしっかり差し込まれていなかったり、プラグの差し刃が変形していたりすると、過熱して火災の原因になります。

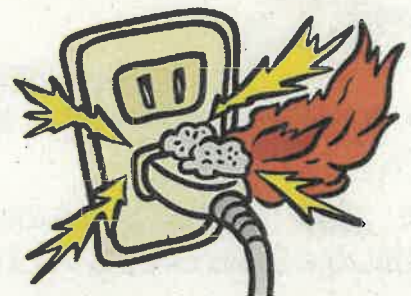
- プラグはコンセントにしっかり差し込む。
- プラグ・コンセントは変形等がないか定期的に点検する。



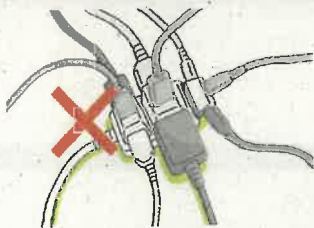
## トラッキング

コンセントに差したプラグの差し刃の周りにほこりが付着していると、湿気を帯びたほこりが電気回路を形成し放電を繰り返すことで火花が発生し、火災となります。

- コンセント周りは定期的に点検・清掃する。
- 使用しないプラグは抜いておく。
- 家具や大型家電製品の裏など、見えにくい場所のコンセントには特に注意する。



## 過多の電流



電源タップを決められた容量以上で使用すると発熱し火災の原因になります。

- 電源タップは決められた容量内で使用する。

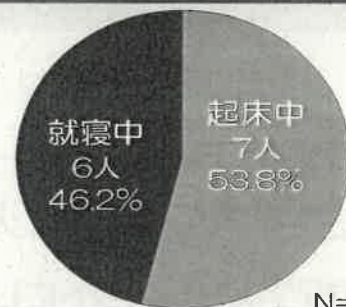




## 住宅用火災警報器で早期発見



- 電気コード火災等によって亡くなった方は、約5割が就寝中に発生した火災により命を落としています。
- 住宅用火災警報器は火災の煙や熱を感知し、警報音を発します。
- 住宅用火災警報器を全ての居室・台所・階段に設置することで、火災が小さいうちに発見し、自分の命を守ることができます。



N=13

電気コード火災等発生時の  
死者の行為状況  
(平成30年～令和4年住宅火災)  
※行為状況不明16人を除く

### 設置してよかった住宅用火災警報器

共同住宅の居住者(男性・30歳代)の居室で、長年電気コードが極端に折れ曲がった状態で使用されていたため、内部の線が半断線していました。半断線により電線に過度の電流が流れたため、発熱し、短絡して火災となりました。

隣人が、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき119番通報するとともに、消火器で初期消火を行ったため、火災の延焼を防ぎました。

### 適切な維持管理を



住宅用火災警報器がホコリなどで汚れている場合、火災を感知しにくくなります。定期的に乾いた布で拭き取りましょう。

また、設置後10年を経過したものは電子部品の劣化等により火災を感知しなくなるおそれがありますので、機器本体を交換しましょう。

※一般的に点検の際の音声等は自動で停止します。

### 点検も忘れずに！



### 問 合 せ 先

東京消防庁 防災部 防災安全課 電話番号 03-3212-2111 内線4196

令和5年10月発行

## 火災発生のお知らせチラシ

### 足立消防署からの緊急なお知らせ!!

2023/●/● 現在、足立消防署管内では、64件の火災が発生しています。  
令和4年の同時期の火災件数は24件でしたが、本年は大幅に増加しています。

令和5年6月●日 足立区●●二丁目で住宅火災が発生しました。

東京消防庁管内で火災や死者の発生割合が高い4項目です。普段から注意点を守り、火災から貴重な命・財産を守りましょう!

#### たばこ

#### 死者発生率が非常に高い!



- ☐ 寝たばこは絶対にしない
- ☐ 飲酒・喫煙・うたた寝に注意
- ☐ 吸殻を灰皿にためない
- ☐ 吸殻は水で完全に消火してから捨てる
- ☐ 火種を落とさないよう安全な場所で喫煙する

#### こんろ

#### 住宅火災の発生率が非常に高い!



- ☐ こんろの奥に物を置かない
- ☐ こんろの周囲に燃えやすい物を置かない
- ☐ こんろの周りは整理整頓
- ☐ 鍋底から炎がはみ出ないように火力を調整する
- ☐ 安全機能(S・センサー)付きこんろを使用する

#### 電気コード

#### 不適切な使用によって火災に!



- ☐ タコ足配線は絶対にしない
- ☐ 使用していないプラグは抜いておく
- ☐ プラグ、コンセントは定期的に清掃する
- ☐ 家具などの下敷き、折れ曲がりに注意する
- ☐ コードを束ねて使用しない

#### 着衣着火

#### 生命に関わる着衣への着火



- ☐ 調理中は、マフラーやストールなどは外す
- ☐ 袖口が広がっている服を着ている時は、炎に接しないよう十分注意する
- ☐ エプロンやアームカバーは防火品を使用する



火災発生について調べると、火災の原因は、たばこ、電気、ガス、火の元、など、さまざまです。火災を防ぐためには、火の元を元から断絶することが大切です。

東京消防庁足立消防署  
足立区機動二丁目1番1号  
消防署防災安全係地球防災担当  
03-3852-0118(321)

足立消防署

検索

